

聖 和 大 学

履修の手引

聖和大学短期大学部

保育科・英語科

2000年度

《教科内容の見方》

開講時期を表示。時間割で確認してください。

授業科目名

卒業要件としての必修科目・選択科目の区分を表示。免許や資格取得に関連した科目については、入学時に配布された学修必携を参照してください。

授業科目担当者氏名。複数で担当する場合は、講義内容が複数の担当者で共通な場合は複数名を表示。

授業科目名	日本国憲法	2単位・後期・選択	後藤 安子
授業のテーマ・ねらい	<p>〈テーマ〉日常生活における具体的事例を通して日本国憲法を考える 〈ねらい〉憲法条文の背後に存在した、又、存在する否定的な事実を通して、人々の苦しみや悩みを考える。それらの中からどのように当事者が立ちあがり、権利の獲得や実現に努力したかについて具体的な事例を通して学ぶ。そしてすべての人々が自由に豊かに平和に暮らす上で、憲法を基礎とする権利や制度がどのように役立つかを考えてみる。</p>		
授業計画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法制定の歴史 2 日本国憲法の基本原理 3 憲法の平和主義 4 人権について。職場における男女平等 5 家庭における男女平等 6 信教の自由と政教分離 7 表現の自由 8 冤罪事件と被害者・被告人の権利 9 日本の学校教育 10 環境と公害 11 選挙をめぐる諸問題 12 地方自治 		
テキスト	播磨信義・木下智史編著「どうなっている!?日本国憲法(改訂版)」法律文化社		
参考文献	憲法教育研究会編「検証・日本国憲法(再訂版)」法律文化社		
評価方法	定期試験による。但し、平常時の出席及び意見提出を考慮する。		
授業履修上の心構え	出欠をとる。授業中にとりあげる問題について意見を書いて提出してもらうので、憲法にかかわる現代の諸問題について関心をもつこと。		

テキストに指定されている書籍は、必ず購入してください。購買部で期間を限定して販売します。ただし、授業中に販売するテキストもあります。

必ず購入しなければならない書籍ではありません。購入する場合は各自で購入してください。

キリスト教学	2単位・前期・必修	小見 のぞみ
授業のテーマ・ねらい	<p>聖書やキリスト教について知ることは、キリスト教の保育観や、キリスト教の子ども観を理解する上で欠くことができない。 このクラスでは、聖書が語る教えや物語にふれ、そこに描き出されている神、人間、イエスをたずねてみる。キリスト教が大切にしてきた祭り（イースター、ペンテコステ、クリスマスなど）やシンボル、礼拝や讃美歌についても共に学ぶ。</p>	
	前 期	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 旧約 創造物語 3 〃 エデンの園と失楽園（ノアの箱船） 4 〃 アブラハムからヤコブ（ヨセフ） 5 〃 出エジプトとモーセ 6 〃 サムエル、ダビデ（ヨナ） 7 新約 イエスが会った人たち 8 〃 イエスのたとえ話 9 イエスの生涯 誕生：クリスマス 10 イエスの生涯 受難週と十字架 11 イエスの生涯 復活からペンテコステ 12 教会歴とシンボル 	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ジーガ・ケーダ絵「わたしの聖書」音響映像 gmc 1998 ・讃美歌21 	
参考文献		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスへの出席 50% ・ノート提出（ノート：授業記録，課題，礼拝報告を含む）50%で評価する。 	
授業履修上の心構え	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時には、必ず「わたしの聖書」、讃美歌をもってこる。 ・出席確認の時間を省くため、座席は指定する。 	

文 学		2単位・前期・選択	増山 初子
授業のテーマ・ねらい	<p>文学とは何か、という問題を机上の空論ではない生きた主題（テーマ）として追求することを心がけたい。まず、実際に文学作品を読むことによって、そこに表現されている人間存在の根源的な問題を明らかにする。次に、学生各自が作品を読んで、そこに自然に浮かび上がってくる自分自身の感想を大切に、それを出発点として、問題意識を深めてゆく。</p> <p>具体的には、「文学に描かれた幼年時代」というテーマのもとに、近、現代の日本文学からいくつかの作品をとりあげ、読み進めてゆく。</p>		
	前 期		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 読書の楽しみ、読書の方法 2 文学に描かれた幼年時代（I） 3 石井桃子「ノンちゃん雲に乗る」の世界 4 // 5 松谷みよ子「ちいさいモモちゃん」の世界 6 // 7 中勘助「銀の匙」の世界 8 // 9 幸田文「みそっかす」の世界 10 // 11 文学に描かれた幼年時代（II） 12 // (III) 		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献図書	随時授業中に指示する。		
評価方法	レポートによる定期試験に、数回の小レポートの提出状況、授業への参加態度を加味して評価する。平常点（小レポートと出席状況）40点、レポートによる定期試験60点、計100点。		
授／履修への心構え	授業でとりあげる作品は積極的に読むこと。出席重視。 第1回目の授業は必ず出席すること。		

心 理 学		2単位・前期・選択	三根 久代
授業のテーマ・ねらい	<p>心理学は、人間行動を研究する科学であるといわれている。その研究対象は、人間生活のあらゆる分野にわたっている。本講では、人間がどの様に外界の情報を取り入れ、行動しているのかについて概説するとともに、その過程に影響する諸要因について考察する。</p> <p>講義時に、簡単な実験を体験していただくとともに、ビデオ教材によっても理解を深めたいと考えている。</p>		
	前 期		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学とは(1)：その歴史 2 心理学とは(2)：研究法 3 感覚(1)：刺激の入力過程と種類 4 感覚(2)：各モダリティーの特徴 5 知覚(1)：成立と特性、形の知覚 6 知覚(2)：空間知覚、運動知覚 7 学習(1)：古典的条件づけ 8 学習(2)：オペラント条件づけ 9 記憶(1)：システム 10 記憶(2)：忘却と変容 11 感情(1)：感情とは？ あなたの感情特性を知ろう 12 感情(2)：感情の果たす役割 		
テキスト	原岡一馬編「心理学概論」ナカニシヤ出版		
参考文献図書	その都度、指示する。		
評価方法	定期試験、講義時の作業参加点および出席点を総合的に評価する。		
授／履修への心構え			

国際理解		2単位・前期・選択
授業のテーマ・ねらい	米国語学研修旅行参加者及び英国文化交流旅行参加者を対象とする。	
	前 期	
授業計画		
テキスト		
参考文献		
評価方法	参加者には、前期の集中ガイダンスへの出席、帰国後のレポート提出を義務づけ、引率教員によるレポート・チェックを経たのち、単位認定する。ただし、レポートを提出しない者には単位を認定しない。	
授業／履修への心構え		

英 語		2単位・通年・選択	岡崎 臣博
授業のテーマ・ねらい	<p>この講義では、ある保育園での1年間の出来事をきわめて平易な短い英文で書いたテキストを用いて、少しずつ英語に慣れていきます。入園、砂遊び、お絵かき、遠足などが登場します。これらの日常的話題に触れながら、自然な会話表現、招待状、カードの書き方も併せて勉強しましょう。</p> <p>日常生活に必要な基本的な単語を通して、英語を学び直すよい機会を提供していきたいと思えます。高校までの Reader や Grammar を忘れてしまっても構いません。</p> <p>1回の講義できることには限りがありますが、こつこつと1年間勉強していくことで、細かい文法事項や、難しい構文にこだわらずに英語が理解できるようになります。その頃には、少なくとも英語は恐くはなくなっているはずです。</p>		
	前 期	後 期	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業内容と注意事項) 2 「新学期」・あいさつの表現 3 「登園」・親族名称 4 「室内遊び」・遊びの名称 5 「砂あそび」・草花の名前 6 「運動場で」・けんかどけがの表現 7 「昼食」・食べ物に関する表現 8 「着替え」・服装に関する表現 9 「お昼寝」・トイレの表現 10 「七夕の日」・動物の名前 11 「病気」・病名と緊急の連絡表現 12 前期試験対策 	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(前期テスト結果と注意事項) 2 「運動会1」・行事の案内状 3 「運動会2」・スポーツに関する表現 4 「散歩1」・地図と建物の名前 5 「散歩2」・交通と道案内 6 「手紙」・カードと絵葉書の書き方 7 「雪の日」・工作とお絵かきの表現 8 「連絡1」・書類に関する表現 9 「連絡2」・連絡帳と時間に関する表現 10 「家庭調査」・行事の名称 11 「1年の終わり」・園便り 12 後期試験対策 	
テキスト	森田和子「保育の英語」 三修社 1996		
参考文献			
評価方法	平常点(出席、授業中の発表)と年2回の定期試験(前期・後期各1回)を総合して評価します。		
授業／履修への心構え	宿題、課題提出、レポートなし。ただし、テキスト本文の予習はしっかりとすることが必要です。しかしそれよりも大切なことがあります。語学の勉強においては、「継続」こそが力です。そして授業中にどれだけ集中できるかが大事です。語学の講義だからと身構えることはありません。幼稚園の先生、保育士さんになった気持ちで、テキストで出会う出来事を一緒に楽しく体験しましょう。		

英 会 話		1 単 位 ・ 前 期 ・ 選 択	P. S. Green
授業のテーマ・ねらい	The primary goals of English One are to have an enjoyable, and productive classroom, where students can learn some of both the language and cultures of the English speaking world. To incorporate this class into other childhood development studies we will begin, and end, each class with songs appropriate for the kindergarten classroom. This is a conversation class, not a grammar class. Students will speak with each other in English during the class. By the end of the course the student should be able to: introduce herself; tell about her family; give instructions; and describe actions in the simple past.		
	前 期		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Self introductions, along with personality traits of loved ones. The present progressive will be reviewed. 2. Review and expansion of the first lesson. An introduction our weekly Show and Tell, and optional letter writing. 3. A study of imperatives through cooking. 4. An expansion of imperatives and prepositions taught to the tune of cartography. 5. Giving directions continued. Expressing the future. A return to the third person, with the introduction of the apartment game. 6. The apartment game continued to include the expression of frequency. 7. Describing customs, family roles, and asking for more information. 8. Social Taboos; explaining rules through models. 9. Simple past. Describing yesterday's events. 10. Simple past continued. Introduction to graded readers, how to read in L2. 11. Last show and tell. Last letters. Exam preparation. 12. Apartment game round up. General review. 		
テキスト	<i>Tiny Talk Song Book</i> Oxford University Press		
参考文献書			
評価方法			
授/履修上の心構え			

スポーツと健康教育		2 単 位 ・ 通 年 又 は 後 期 ・ 選 択	藤木大三・金山千広
授業のテーマ・ねらい	<p>テーマ 健康づくりと生涯スポーツ</p> <p>ねらい 現代社会における科学技術の高度な発展は、人々の生活をより豊かにする一方で、そのライフスタイルにも大きな影響を及ぼしている。技術化、機械化に伴う運動不足は、生活習慣病の原因とされ、身体はもとよりストレスへの対処等に代表される心の健康へも大きくかかわっている。人生80年代を迎えた今、生涯にわたる健康づくりは、社会全体の課題として取り上げられている。</p> <p>この課題に取り組むためには、健康づくりに対する正しい知識に基づく個人の適切な意思決定や行動選択能力が重要となる。具体的には、運動に対する重要性の知識、継続のための創意工夫、運動を運動を通じた仲間作り等があげられる。</p> <p>本授業では理論と実践を通して、自らが計画的に、安全に、楽しく、効果的に健康づくりを推進するための基礎能力を養う。そして、生涯スポーツにふさわしい運動種目を紹介し、その基礎的技術を習得するとともに、個人の運動の目的に応じた、種目、強度、時間、頻度等を選択する能力を育成する。さらには、本授業で学習した知識を基に学業終了後も地域社会においてスポーツを継続する楽しさを伝えることとしたい。</p>		
	前 期	後 期	
授 業 計 画	<p>理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (健康づくりとスポーツ) 2 スポーツの重要性 (ライフスタイルと運動) 3 健康づくりのための運動プログラム 4 身体の仕組みと運動 5 生活習慣病と運動の関係—内科的疾患と運動 6 生活習慣病と運動の関係—外科的疾患と運動 7 生活スポーツと地域スポーツ 8 運動・スポーツ活動への参加の現状 9 ライフステージとスポーツのかかわり 10 地域における健康・スポーツの組織と施設 11 スポーツを楽しむときに必要な条件 12 みるスポーツとスポーツイベント 	<p>実技</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション及びドッジボール 2 フライングディスク 3 ディスクゴルフ 4 グループ対抗フィットネス大会 5 チュックボール 6 バドミントン 7 キックベースボール 8 タッチフットボール 9 学外オリエンテーリング 10 バスケットボール 11 ソフトボール 12 散策・ジョギング 	生涯スポーツにふさわしい種目を紹介します。
テキスト	山下秋二・畑 攻 編著 「スポーツ経営学概論」 大修館書店 1999 .		
参考文献書	随時プリントを配付する。		
評価方法	理論は筆記試験を実施する。講義内容から出題する。出席状況、態度を重視する。 実技は、出席、レポート、に加えて、各自の授業への取り組む姿勢により評価する。		
授/履修上の心構え	理論は、実生活に則した内容を紹介するので、積極的に参加してほしい。 実技は運動が行える服装、屋内・屋外用シューズを常に用意すること。得意、不得意に関係なく楽しく体を動かすことを心がけてほしい。		

人権・同和問題講義		2単位・後期・選択	加藤 鉄三郎
授業のテーマ・ねらい	<p><テーマ> 差別意識について考える。 <ねらい> この授業では、日本社会に今なお根深く存在する部落差別をはじめ、国内外の多くの人権・差別問題について学習する。「家柄」や「学歴」「職業」などで人を見る人間観や差別意識にとらわれる人間の姿、また逆に被差別の立場にあって差別と闘い、人間の尊厳の行動化をめざして生活している人びとの姿などを学ぶことにより、差別は差別される人だけでなく、差別する人も傷つけ、その人の生き方をいかに狭め、歪めてしまうものであるかを深く自己の課題として考え得るよう進めていきたい。</p>		
	後 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人権・同和問題を学ぶにあたって 2 伝統的価値観と差別問題 3 国際化社会と部落差別 4 “全国水平社創立宣言”と部落解放運動 5 差別の歴史と“同和对策審議会答申” 6 人権教育と啓発 7 「同和」保育と“子どもの権利条約” 8 在日外国人と同化政策 9 人種差別問題と関係条約 10 国内のマイノリティーと先住民族 11 宗教と差別問題 12 女子差別問題と“男女雇用機会均等法” 		
テキスト	テキストはなし。随時資料を配付する。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	○期末の筆記試験とレポート提出。(5枚程度) ○授業への出席と意欲を重視。		
授業履修上の心構え	学外学習を1回予定。(自主参加) 例, 人権博物館の見学等		

教育の本質と思想		2単位・後期・選択	坂田 嘉郎
授業のテーマ・ねらい	<p>この授業は教職科目の入門的な教科と位置づけています。受講者の意識は「保育」「幼児教育」の問題に関心が傾きがちですが、同時に現代の我が国の学校教育を取巻くさまざまな問題を視野に入れながら、子どもの教育の問題に目を向けることが必要だと考えています。およそ2週間でトピックスとしてのテーマを解説し、身近な教育の問題を解説しながら考えていきましょう。 同時に保育士、教職者としての基本的なあり方、力量を考える時間となるように努力します。</p>		
	前 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育, 教育観としてのプログレッシヴィズム(進歩主義)思想 2. 教育, 保育の本質としての子どもへの信頼と人間観 3. 理想的人間像としての全人, 人間性の全面的発達観 4. 保育者, 教育者の資質, 力量と養成の歴史 5. 子どもの成長と地域社会の教育力 6. 経験主義の教育思想の系譜, ルソーからの流れをたどる 		
テキスト	レジュメ配布予定。		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業への参加態度(出席)と期末筆記試験の総合評価。レポート提出もあります。		
授業履修上の心構え			

教師論		2単位・前期・選択	丸尾 譲・久 洋子
授業のテーマ・ねらい	教職の意義、教員の役割、教師の職務内容などに関する基礎的知識について、講義・討議・保育の現場の観察を通して学習するとともに、教育は単なる指導技術の習熟によって可能になるのではなく、教師の文化に対する畏敬の念、子どもの発達に対する理解、暖かい教育愛などによって培われた資質と、教育者としての自覚と使命感を通して可能になることを理解する。		
	前 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育とは何か 2 わが国の教育の現状と課題 3 教職とは何か 他の職業との違いは何か 4 教師とは何か その役割と職務内容 5 研修、身分保障 6 教師の使命感と教育愛 7 8 } 教育現場の観察 9 } 現職教員との討議 10 } 現職教員の指導と助言 11 } 12 } 		
テキスト	後日、指示する		
参考文献	後日、指示する		
評価方法	平常の授業における学習姿勢、提出物、定期試験などにより総合的に評価する。		
授業履修上の心構え	<p>今の「自分」を見つめ、一人の人間として成長しようと努める姿勢こそ教師の資質として求められるものです。</p> <p>授業を意欲的に聞き、課題意識を持って学ぶ姿勢を持ち続けてほしいと願います。</p> <p>講師も学生の皆さんと一緒に学び成長したいと思えます。</p>		

発達心理学 I		2単位・後期・選択	橋本 祐子
授業のテーマ・ねらい	ライフサイクルの中での人間の成長・発達をとらえ、特に乳幼児期の精神機能の発達の特徴の諸側面を学ぶ。視聴覚資料を多く取り入れた講義を通して、保育者として必要な基礎知識を得ると同時に、乳幼児の生活や活動の中での発達の变化をとらえる「目」を養うことを目的とする。また、主な発達観・発達理論について、各々の特徴と限界についても知る。		
	後 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフサイクルの中での人間の発達 2 胎生期から誕生へ 3 新生児期 新生児の諸能力・反射運動から随意運動へ 4 乳児期 感覚機能と知覚の発達 5 愛着の形成とパーソナリティー1 6 愛着の形成とパーソナリティー2 7 感情・情諸の発達 8 思考・認知機能の発達1 9 思考・認知機能の発達2 10 自己意識・自己概念の発達 11 遊びの発達 個から集団へ 12 仲間関係・対人関係の発達 		
テキスト	黒田実郎「幼児心理学」柳原書店 1987		
参考文献	山内光哉「発達心理学」上巻 ナカニシヤ出版 1989 川上清文・内藤俊史・藤谷智子「図説 乳幼児発達心理学」1990 内田伸子「幼児心理学への招待」サイエンス社 1989		
評価方法	課題・定期試験の成績および出席状況によって評価する。		
授業履修上の心構え			

保育基礎演習		2単位・前期・必修	浅野葉子・高田正久・千葉武夫 広渡純子・丸尾喜久子・金山千広
授業のテーマ・ねらい	<p>本科目は、これから保育に携わろうとする者にとって必要な基礎を身につけることを目的とする。具体的には、「子どもを知る」「自分を知る」「現代における子どもや家庭の問題を知る」「保育者の姿」などのテーマを柱としながら、同時に保育者に要求される観察力、判断力、思考力、表現力、幅広い視野などを伸ばすことを目指したい。</p> <p>上記の4つのテーマをもとに、それぞれのゼミで様々な演習を行う。</p>		
	前 期		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子ども時代の体験について ・子ども観察、子ども理解について ・現代の教育、家庭の問題について ・講演 ・読書レポート ・新聞の切り抜き ・さまざまなテーマでのディスカッション ・体験学習 		
テキスト			
参考文献			
評価方法	定期試験，提出物，授業出席状況および参加態度などで総合的に評価する。		
授業/履修への心構え	履修にあたっては、将来子どもにかかわる専門家となるために、積極的・意欲的で責任ある態度が求められる。また、普段から子どもとかかわったり観察する機会を持ち、子どもの遊びをできるだけ体験しておくことが望ましい。		

保育原理 I - A		2単位・後期・選択	上田 哲世																																				
授業のテーマ・ねらい	<p>幼児教育の場で使われている「保育」という語は、乳幼児の教育のあり方を典型的に表したことばである。「保育とは何か」を問うことは、「子どもを理解すること」、「保育のあり方を探求すること」であり、それは自らの子ども観（幼児観）、保育観（保育理念）につながっていく。この科目は、実習や保育内容、発達心理学などの科目と深く関係しており、それらとの関連の中で総合的にとらえていく。</p> <p>子どもを取り巻く状況の変化はめまぐるしく、保育所や幼稚園では今後のあり方が模索されている。保育の制度・保育の歴史・子どもの発達など保育の基本的理論を学ぶことを通して、誕生から就学までの乳幼児の保育がいかにあるべきか、その意義や目的について考え、理解することをねらいとする。</p>																																						
	後 期																																						
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 5%;"></td> <td style="width: 90%;">授業のオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(1)保育の意義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(2)家庭保育と集団施設保育</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(3)保育所・幼稚園の制度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(4)保育所と幼稚園の関係</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(1)歴史を学ぶ観点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(2)欧米における幼児教育施設の誕生と発展</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(3)歴史からみた日本の幼児教育</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(1)乳幼児の発達特性</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">(2)発達課題と保育者の援助</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">}</td> <td></td> </tr> </table>			1		授業のオリエンテーション	2	}	(1)保育の意義	3	}	(2)家庭保育と集団施設保育	4	}	(3)保育所・幼稚園の制度	5	}	(4)保育所と幼稚園の関係	6	}	(1)歴史を学ぶ観点	7	}	(2)欧米における幼児教育施設の誕生と発展	8	}	(3)歴史からみた日本の幼児教育	9	}		10	}	(1)乳幼児の発達特性	11	}	(2)発達課題と保育者の援助	12	}	
1		授業のオリエンテーション																																					
2	}	(1)保育の意義																																					
3	}	(2)家庭保育と集団施設保育																																					
4	}	(3)保育所・幼稚園の制度																																					
5	}	(4)保育所と幼稚園の関係																																					
6	}	(1)歴史を学ぶ観点																																					
7	}	(2)欧米における幼児教育施設の誕生と発展																																					
8	}	(3)歴史からみた日本の幼児教育																																					
9	}																																						
10	}	(1)乳幼児の発達特性																																					
11	}	(2)発達課題と保育者の援助																																					
12	}																																						
テキスト	土山忠子・山本和美編著「新版 現代保育原理」建帛社 1997 関連ある内容を随時プリントにて配布。																																						
参考文献	森上史朗編「最新保育資料集」ミネルヴァ書房																																						
評価方法	授業内における提出物，定期試験，平常点（出席状況・出席態度）により総合評価する。																																						
授業/履修への心構え																																							

音楽理論		1単位・前期・選択	宇都宮正人・魚住千代子
授業のテーマ・ねらい	<p>「音楽理論」を知らなくとも、音楽を充分に楽しむことができます。それどころか、生かじりの「頭」だけで理解した「音楽理論」など全く意味がなく、かえって音楽を楽しむ妨げにさえなります。(音楽は楽しまなければ意味がありません)</p> <p>けれども、やはり「音楽理論」を身につけておくと、次のようなことで「便利」なのです。</p> <p>(1)物理的な実体のない音楽というものの内容についての話がしやすい。</p> <p>(2)音楽の構造がわかっている方が、ピアノで何かの曲をひくにしても、曲を鑑賞するにしても、納得がいきやすい。</p> <p>(3)即興でピアノをひいたり、メロディーに伴奏をつけたりすることは、少なくとも基本的な和声法(和音とその流れ)を知らなければできません</p> <p>(4)楽譜も、できるだけ読めた方が便利ですね。理論は読譜の助けになります。</p> <p>というわけで、音楽と何かとかかわりの多い保育の専門家には、この「便利さ」を大いに活用することによって、多様に音楽を楽しんでいただきたいものです。</p> <p>この授業では、以上の観点をもとに、「旋律と和音」ということを中心にすすめます。</p>		
	前 期		
授業計画	<p>1 } 基本的な説明</p> <p>2 } 基本的な説明</p> <p>3 和音のしくみと形態</p> <p>4 コードネームについて</p> <p>5 } 旋律と和音の関係について</p> <p>6 } 旋律と和音の関係について</p> <p>7 長調における和音とそのはたらき</p> <p>8 旋律の和声づけ</p> <p>9 } 旋律の和声づけの実習</p> <p>10 } 旋律の和声づけの実習</p> <p>11 } 旋律の和声づけの実習</p> <p>12 } 旋律の和声づけの実習</p>		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	本学編「幼児教育者のためのピアノ曲集」		
評価方法	定期試験期間中の筆記試験で判定します。ただし実授業数の1/3以上欠席した者は試験の成績にかかわらず不合格とします。		
授業履修上の心構え			

声 楽		1単位・通年・選択	岡田晴美(前期)・丸尾喜久子(後期) 魚住千代子(〃)
授業のテーマ・ねらい	<p>保育の場で幼児と一緒に歌を歌ったり、まだ歌えないような乳児に愛情を持ってひんぱんに歌いかけることはとても大切です。それぞれの場にふさわしい歌を、自然な発声法で歌い、こどもとともに楽しむことができるようにというのが授業のねらいです。視唱力を養い、正確な音程とリズム、明確な発音で歌う力を育てるとともに、保育者にのぞましい声、歌う態度等を、実践体験を通して学びます。学生自身が歌を歌う喜びを深く感じる様な授業にしたいと思います。</p>		
	前 期	後 期	
授業計画	<p>こどものために作曲された多くの歌やソルフェージュ練習曲、ハーモニー感を育てる為の輪唱や合唱曲を歌う。</p>		
テキスト	<p>プリント配布</p> <p>音楽リズム 幼児のうた楽譜集 東京書籍(後期)</p>		
参考文献			
評価方法	<p>1. 期末実技成績</p> <p>2. 授業時の発表</p>		
授業履修上の心構え	授業に臨んでの準備、積極的な授業参加態度を期待する。		

器 楽		2 単位・通年・選択	宇都宮正人・山浦菊子・福田素子・黒田康子・高田正久 丸尾喜久子・塚本康敬・中村千晶・浅野葉子・谷村宏子 長谷川順子・奥村薫・山鹿その・白倉朋子・深田直子 渡辺康一郎・村上公子・松田真理子・柴田礼
授業のテーマ・ねらい	<p>この授業は、幼稚園や保育所等における子どもたちの音楽活動の助けとなるためのピアノ演奏の基礎技能を修得することを目的としている。</p> <p>正確に楽譜を読み、曲の持つ音楽性を表現することと共に、子どもを自然な音楽活動に導くために即興・移調・テンポの変化・編曲など、必要に応じて学習する。また、歌の伴奏法や、ピアノを弾きながら歌う「弾き歌い」なども指導される。</p>		
	前 期	後 期	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピアノ演奏の基礎技能の習得。 ・正確な読譜力・演奏・表現力を養う。 2 保育者に求められる技能の習得。 ・表現活動のための、様々な拍子・リズム形態を学ぶ。 ・幼児を観察しながら演奏する。 ・曲の速度・強弱・和音等を必要に応じて変化させる。 3 歌の伴奏技能の習得。 ・伴奏の技術、移調の技術、弾き歌いの技能。 授業形態は個人レッスンであるが、小グループ編成で行い他の人の演奏を通して学んだり、人前で演奏する訓練をする。 		
テキスト	聖和大学編「幼児教育者のためのピアノ曲集」(1998, 改訂第2版) 他。		
参考文献			
評価方法	評価は平常点(出席状況を含む)と実技試験の成績をもってする。 実技試験の再試は行わない。		
授業履修上の心構え	ピアノはすぐに上達するものではない。何よりもまず、日々の練習の積み重ねが大切である。		

美 術		2 単位・通年・選択	中西茂幸・清原知二
授業のテーマ・ねらい	<p>美術は我々の生活の中で息づくことができているか、我々が知っているものが美術のすべてなのかを考えていきます。授業では、なぜ美術が存在するのか、人間にとって美術とは何であるのかを考えることを基本にして、体験的授業を行います。あわせて、今日の美術教育・指導法についても考えて行きたいと思います。</p> <p>授業は講義と実習に分けられ、講義では人と美術、造形、表現の関わりなどについて考えて行く予定です。実習では、まず幼児が遊ぶ姿にいかにかに近付けるか、自らも幼児のように遊んだり、遊具を触ったりする事を通して幼児を見つめ直すことをテーマにしています。</p> <p>今まで経験した美術とは違った面をどれほど発見できるかがポイントです。実習ではとくに、指示を待って行動するという受け身の授業態度では受講できません。与えられたテーマをどのように解釈するかから始まります。単に言われたことをその通りにこなす、提出すればよいという姿勢では受講し続けるのは困難であるということを始めに申しておきます。</p>		
	前 期	後 期	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 大きく描く 3 講義 4 講義 5 表現技法 6 表現技法 7 表現技法 8 表現技法 9 表現技法 10 壁面構成 11 壁面構成 12 壁面構成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義 2 制作・人形劇(選択) 3 制作・人形劇 4 制作・人形劇 5 制作・人形劇 6 制作・人形劇 7 制作・人形劇 8 制作・人形劇 9 制作・人形劇 10 粘土 11 粘土 12 講義 	
テキスト			
参考文献	特になし		
評価方法	提出物では上手、下手ではなく、いかに工夫したか、努力したか、そして目的性にあつたものであるかです。企画実演ではその計画性、内容、取組姿勢そして提出レポートなどです。		
授業履修上の心構え	提出だけの参加は認めません。テーマごとに説明を行います。それらは必ず聞いていただき、それに則して計画実行していただきたく思います。		

体 育		2単位・前期・選択	金山 千広
授業のテーマ・ねらい	<p>テーマ 幼児期における心身の発達の特性と体育 ねらい</p> <p>この授業は乳幼児期の子どもの保育に携わっていかうとする人たちのための専門体育である。幼児の体育は、運動あそびが中心となる。運動あそびとは、活発にからだを動かすことが核となったあそびのことである。</p> <p>この授業では、子どもの発達段階をふまえた運動あそびを経験するとともに、ねらい、内容等を含めた指導計画の作成、指導形態、指導過程、評価までをトータル的に実践する力を養成することを目的とする。また、リズムあそびを取り入れた最新の子どもフィットネスも紹介する。</p>		
	前 期		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 導入について (ウォーミングアップ) 3 キッドボックス&子どもの FUNK 4 パラバルーン 5 ボール 6 フープ 7 なわ 8 タイヤ 跳び箱 鉄棒 9 マット 10 まとめについて (クリーニングダウン) 11 12 指導計画作成～展開 発表 		
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。		
参考文献 献書	<p>米谷光弘 編著 「健康」理論編 三晃書房 1992</p> <p>米谷光弘 編著 「健康」実技・実践編 三晃書房 1992</p> <p>渡辺みどり 「フィットネス キッドボックス」MWM inc. 1998</p>		
評価方法	出席、態度、レポートにより総合評価します。		
授業/履修上の心構え	実際に体を動かすので、運動が行える服装、シューズの準備が必要です。また、毎時間運動の説明を行うので、筆記具も持参すること。できる、できない、上手、下手よりも運動することの楽しさを経験してください。		

保育課程総論		2単位・後期・選択	千葉 武夫
授業のテーマ・ねらい	<p>幼稚園・保育所には、教育課程、保育課程・指導計画などの保育を進めていくための計画がある。これらは英語のカリキュラムに由来する言葉である。カリキュラムは、子どもにとって入園から修了まで、年・月・週・日の生活を、支え導くもので、保育者が一人ひとりの特性や発達課題に即したねらいと内容をこめて環境を用意し、乳幼児にふさわしい生活が出来るように援助するために必要なものである。</p> <p>本講義では、歴史や思想をふまえて、教育・保育課程の意義および実際を学ぶことを目的とする。最終的には、保育者になろうとする受講者が、保育の計画を、自分の園・自分のクラスの子どもたちの姿をしっかりと捉えて、保育者としての願いをもちながら、カリキュラムを立てる力を身につけることを目指す。</p>		
	後 期		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育の計画と基本 2 保育計画の意義と方向 3 保育計画の歴史の変遷 4 幼稚園における教育課程の意義 5 保育所における保育計画の意義 6 教育課程・保育課程の編成の基準 (法制) 7 目的・目標・ねらい・内容 8 教育課程・保育課程の編成 9 指導計画 10 長期指導計画の実際 11 短期指導計画の実際 12 指導計画の展開と反省・評価 		
テキスト	後日指示する		
参考文献 献書	<p>ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会「ハンドブック教育・保育・福祉」北大路書房 1999</p> <p>岸井勇雄著「幼児教育課程総論」同文書院 1990</p>		
評価方法	定期試験、提出物、授業に対する取り組み方などで総合的に評価する。		
授業/履修上の心構え	積極的な態度で受講することを望む		

保育内容 環境		1単位・前期・選択	井頭 均
授業のテーマ・ねらい	<p>今日の文明社会で育った子ども達は、テレビや絵本などを通して多くの間接的な知識に恵まれているが、自分で実際に見たり触れたり行ったりする直接体験に乏しいと言われている。この授業では、子ども達が恵まれた環境、豊かな環境のなかで色々な原体験を経験することの大切さを学んでいきたい。講義のほか、実験や観察も併せて行うので、受講生は積極的に取り組んでほしい。</p> <p>また、テキストを読んで、内容についてのレポートを課す。</p>		
	前 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもと環境 2 幼稚園教育要領「環境」 3 社会環境 4 ウサギの生態と飼育法 5 ニワトリ 〃 6 金魚 〃 7 草花の生態（タンポポなど） 8 野菜（ダイコン、ジャガイモなど） 9 植物の観察 10 科学遊び（シャボン玉） 11 〃（浮くもの探し） 12 草花の栽培 		
テキスト	聖和のみどり，聖和大学自然研究室編		
参考文献	子どもと環境，中島出版		
評価方法	定期試験，レポートなどにより総合評価する。		
授業／履修上の心構え			

保育内容 言葉		2単位・通年・選択	上田哲世(前期)・広渡純子(後期)
授業のテーマ・ねらい	<p>「ことばは人をつくる」といわれているが、ことばを通して人は社会生活を営む人間として成長していく。ことばの獲得は自分の外（人や社会と直接かかわる生活）と内（自己内の精神生活）に向けてのコミュニケーションを可能にし、その獲得過程は子どもにとって自我形成の過程ともいえる。すなわち、ことばを育てることは乳幼児の教育において、きわめて重要な課題である。</p> <p>保育者をめざす学生自身のことばの問題もあわせて考えながら、子どもにとってことばとは何か、どのようにことばを獲得していくのか、そしてことばを育てるためにどのように援助したらよいかを、ビデオ視聴やディスカッション、観察を取り入れながら、ともに模索したい。またストーリーテラーから語ってもらった経験から、その楽しさを実際に体験し、さらに具体的な方法を身につけることができるように、後期は実技、演習に重きをおく。</p>		
	前 期	後 期	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 } ことばと乳幼児の生活 3 } (1) 子どもとことば 4 } (2) ことばの獲得過程 5 } (3) ことばの障害 6 } 7 } ことばを育てる 8 } (1) 領域「言葉」のねらいと内容 9 } (2) 保育者の声とことば 10 } (3) 言語文化財の利用 11 } 12 課題（手作り絵本）の説明，指導 	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ことばの胎生期としての乳児期(子守歌、遊び歌など) 3 子どもと絵本 I 4 〃 II 5 〃 III 6 〃 IV 7 〃 V 8 子どものおはなし体験について 9 ストーリーテリング 10 昔話について 11 人形劇，エプロンシアター，パネルシアターなど 12 ことば遊び 	
テキスト	<p>(前期) 岸井勇雄他編「改訂・言葉」チャイルド本社 2000</p> <p>(後期) 間崎ルリ子「ストーリーテリング」児童図書館研究会 1987</p>		
参考文献	<p>松居 直「絵本・ことばのよろこび」日本基督教団出版局 1995</p> <p>瀬田貞二「幼い子の文学」中央公論社 1980</p> <p>東京子ども図書館「私たちの選んだ子どもの本」1991</p>		
評価方法	平常点（出席状況）および課題（手作り絵本，子どものことば収集，実演，レポートなど）により総合評価する。		
授業／履修上の心構え	図書館分室（絵本の部屋）を利用すること。		

保育内容 表現 I		2 単位・後期・選択	山浦 菊子
授業のテーマ・ねらい	<p>幼稚園教育要領では、美にたいする感性と表現について、そのねらいを「心情」「意欲」「習慣や態度」と説明している。そのような園における子どもの音楽活動を保育者がどのように共有し援助出来るかということが中心のテーマとなる。</p> <p>創造的な表現を子どもたちが毎日の生活のなかで充分楽しむことのできるような環境設定と、そのために発達の問題を理解し、望ましい方法や技能について学ぶことを目的とする。</p> <p>特にここでは、子どもの身体的表現活動（動きのリズム）を中心に考える。</p>		
	後 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの音楽教育観について 2 日本の幼児の音楽教育の歴史について 3 幼稚園教育要領の成立と構造 4 園における実際の音楽活動の方法論 5 ①物的・人的両面からの環境計画 6 ②動きのリズムの実際について 7 ③ 楽器あそびの導入 8 ④ 音楽性の側面の指導について 9 10 わらべうた、アクションソング、手あそび、などについて 11 一年を通してのカリキュラム構成や季節・行事との関連 12 まとめ 		
テキスト	山浦菊子編著「保育におけるムーブメント」(株)みらい 1996		
参考文献	<p>山浦菊子共著「表現II 音楽的表現」チャイドル本社</p> <p>山浦菊子共著「表現II 感性と表現」チャイドル本社</p> <p>聖和大学編「Piano Music for Young Children」</p>		
評価方法	テストによる		
授業/履修への心構え	<p>理論と同時に、実際に身体を動かしてみることによって、こどもの動きやリズムを把握していくことが大切。積極的に活動に参加する姿勢がほしい。</p> <p>上ばきを着用のこと。</p> <p>動きやすい衣服で授業にのぞむこと。</p>		

小児保健		4 単位・通年・選択	高内 正子
授業のテーマ・ねらい	<p>乳幼児の保育の場において、保育者にとって最も重要なことは乳幼児の健康な発育発達を援助することである。乳幼児は自分の力のみでは自らの生命を維持してゆくことはできず、さらには、順調な発育発達を進めて行くこともできない。乳幼児はその健康管理を保育者に依存しなければならず、従って、乳幼児の育ちは保育者の健康および保健に関する知識のレベルに左右されるといっても過言ではない。保育者のための小児保健を学習する。</p>		
	前 期	後 期	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の健康とは 2 小児保健の諸統計 3 身体発育とその評価 4 生理機能の発達 1 5 生理機能の発達 2 6 精神機能の発達 7 感覚器の発達 8 運動機能の発達 9 乳幼児の栄養 10 乳幼児の養護 11 遺伝と先天性疾患 12 新生児の病気・周産期異常 	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児と循環器疾患 2 乳幼児と呼吸器疾患 3 乳幼児と消化器疾患 4 乳幼児と感染症 5 乳幼児と予防接種 6 乳幼児と神経性疾患 7 乳幼児とアレルギー 8 乳幼児と救急疾患 1 9 乳幼児と救急疾患 2 10 乳幼児の生活環境と健康 11 保育における事故防止 12 保育における安全教育 	
テキスト	高野 陽編「小児保健」ミネルヴァ書房		
参考文献			
評価方法	出席状況、筆記試験（後期）より総合評価する。		
授業/履修への心構え	すべての授業に出席すること。		

社会福祉学		2単位・前期・選択	土田 美世子
授業のテーマ・ねらい	<p><テーマ> ライフステージと社会福祉</p> <p><ねらい> 社会福祉の視点・制度・内容を学び、ライフステージそれぞれにおける社会福祉の機能と実際について考察する。また、社会福祉の最近の動向を紹介すると共に、身近な福祉問題について共に考えていきたい。保育士として必要な社会福祉の知識を修得し、保育ソーシャルワーカーとしての視点を身につけることを目指す。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会福祉とは 3. ～4. 社会福祉の歴史 5. 社会福祉制度と専門機関 6. ～11. ライフステージと社会福祉 12. 社会福祉の今後の課題 		
テキスト	後日指定		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	成績は、定期試験（60％）と平常点（40％）をあわせて評価を行う。平常点は、授業内のレポート・小テスト・出席を加味して点数化する。		
授業修上の心構え	授業への積極的な参加を求める。		

児童福祉		2単位・後期・選択	土田 美世子
授業のテーマ・ねらい	<p><テーマ> 子どもの権利と児童福祉</p> <p><ねらい> 権利主体としての児童，という視点をベースに，児童福祉の制度・運用の実際を学んでく。保育者として最低限必要な児童福祉についての知識を修得し，21世紀に向けた児童福祉に関わる専門職の役割についても考察する。</p>		
	後 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 児童を巡る現状 3. 児童の権利の変遷 4. 現代の児童の権利侵害の現状と対策 5. 児童福祉専門機関と法律 6. ～11. 児童問題と福祉対策 12. 児童福祉専門職の今後 		
テキスト	後日指定		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	成績は、定期試験（筆記60％）平常点（40％）をあわせて行う。平常点は、授業での発言・レポート等の課題・出席等を加味して行う		
授業修上の心構え	授業では、子どもの権利を守るべき一人の大人として・専門職を目指すものとして、児童の幸せ（福祉）について各自が考えることを重視する。このため、授業への積極的な参加を求める。		

<p>養護原理 2単位・後期・選択 辰己 隆</p>	
<p>授業のテーマ・ねらい</p>	<p>〈テーマ〉 社会福祉的視点を通して、施設養護の「実践」と「理論」を学ぶ 〈ねらい〉 「社会福祉 (Social Welfare) とは何か?」を常に問いながら、保育者としてあるべき施設養護を理解し、認識していく。 前半は、「実践」の面から、ある児童養護施設を事例にあげ、新人保育と先輩職員とのケアワークを具体的に考察していき、1年間の行事や起こるであろう出来事を通して、福祉的な視点や実践活動の意義、施設養護に関する用語を理解する。 また、保母実習の場面も想定したロール・プレイングも行う予定である。 後半は、「理論」の面から、社会福祉事業が成り立つ歴史的な経過を説明し、社会福祉事業の背景を理解すると共に、現代の施設養護を展開する上での必要な社会福祉援助技術 (Social Work Practice) や児童福祉施設の概略を学習する。 また、将来保育者としての自覚を認識するために、施設養護の専門職としての知識、技術、価値観、社会的地位についてもふれていく。</p>
<p>後 期</p>	
<p>授業計画</p>	<p>以下のポイントに絞って、具体的なケース事例を通して、授業を展開する。 1 事例研究Ⅰ「ある児童養護施設の1年間」 4月, 5月 2 事例研究Ⅱ「ある児童養護施設の1年間」 6月, 7月 3 事例研究Ⅲ「ある児童養護施設の1年間」 8月, 9月 4 事例研究Ⅳ「ある児童養護施設の1年間」 10月, 11月 5 事例研究Ⅴ「ある児童養護施設の1年間」 12月, 1月 6 事例研究Ⅵ「ある児童養護施設の1年間」 2月, 3月 7 社会福祉事業の歴史的背景を学ぶ。 8 現代社会と施設養護のあり方を考察する。 9 施設養護の原理と機能を認識する。 10 施設養護の概略を学習する。 11 施設養護と社会福祉援助技術の関係を学習する。 12 まとめ</p>
<p>テキスト</p>	<p>入江 実著「養護原理—実践と理論—」さんえい出版 1999年</p>
<p>参考文献</p>	<p>随時・紹介する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験 (筆記試験), レポート, 小テスト, 授業態度による評価を行う。</p>
<p>授業履修上の心構え</p>	<p>施設養護に関する様々な社会問題を考察していくので、教科書以外のレジュメも配布する予定である。なお、将来保育者を志す者としての自覚をもって履修すること。</p>

<p>乳児保育Ⅰ 2単位・後期・選択 大倉 三代子</p>	
<p>授業のテーマ・ねらい</p>	<p>0・1・2歳児を対象とした保育の理論と実践を学ぶ。乳児の発達 (身体・運動面, 知的・精神的な面, 言語的な面, 社会的な面など) の過程を総合的に理解し、把握していく。さらに、保育所保育を中心とする乳児保育の内容について学習する。特に、乳児を保育する上で保育者の役割や具体的援助の内容と方法、乳児の生活や遊びの実態把握とその重要性を認識することを求める。 乳児をとりまく社会情勢は、少子化、核家族化、女性の就労者の増加などの社会変化に伴い、家庭での育児能力の低下、地域社会の相互援助や教育力の弱体化など、著しく変化してきている。多様化する保育ニーズに対応していく保育所保育のあり方や、乳児保育が重視される現代社会を明確に認識し、望ましい保育の内容についても考察していく。</p>
<p>後 期</p>	
<p>授業計画</p>	<p>1 保育所と乳児保育 乳児保育の意義と必要性 2 保育所保育指針 3 乳児の保育環境 (養護的・教育的) 4 VIDEO (Space of Grow) 紙おむつ実験 5 年齢別発達の課題と保育の内容 6 6カ月未満児 7 6カ月～1歳3カ月未満児 8 1歳3カ月～2歳未満児 9 2歳児 10 乳児の保育カリキュラムと記録 11 保育所の役割 地域に開かれた保育 12 乳児保育のあり方と今後の課題</p>
<p>テキスト</p>	<p>土山忠子編著「乳児保育」北大路書房 1998年 厚生省児童家庭局「保育所保育指針」フレーベル</p>
<p>参考文献</p>	<p>キリスト教保育連盟「キリスト教保育」(月刊誌) 幼児保育研究会/代表 森上史朗編「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 2000年</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験, 出席状況などによる総合評価とする。</p>
<p>授業履修上の心構え</p>	<p>保育士資格取得のための必修科目である。 1/3以上欠席した者は、単位を取得できない。</p>

総合演習		2単位・後期・選択	千葉武夫・井頭 均・高田正久 広渡純子・丸尾喜久子・浅野葉子 金山千広・青木宏子
授業のテーマ・ねらい	<p>本科目は、「人間尊重・人権尊重の精神・地球環境・異文化理解などの人類共通のテーマ」や「少子高齢化と福祉・家庭のあり方」といった我が国の全体に関わるテーマをもとに、ディスカッション・実地の見学・参加・調査等を中心に社会の現状を理解する。具体的には、「環境と生活」(ゴミ問題・ダイオキシン・リサイクル)・「情報化社会」(メディアリテラシー・情報化社会の問題点)・「音と社会」(騒音公害・音楽の果たす役割)・「ことばと心」(子どものこころ・家族の役割)・「子どもの人権」(子どもの権利・親の責任について・家庭教育)・「子どもと遊び」(少子化問題と子ども・遊び場)・「日本の伝統」(伝統文化の継承・高齢者との関り)等のテーマを選択しそれぞれの諸問題を明らかにし、今後教育者を目指す者の課題と責任を見いだしたい。また、その内容について将来を背負う子どもたちにどのように具体化していくかを検討し、教育の現場において反映できるような指導法の研究まで行うこととする。特に指導法については、本学の養成課程である幼児教育に反映するのにふさわしい指導法や技術についてまで考えることとする。</p>		
	後 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (テーマの説明・内容の理解) 2 テーマの選択・課題の検討 3 演習1 (見学・調査・参加・ディスカッション等) 4 報告・発表・評価 5 演習2 (見学・調査・参加・ディスカッション等) 6 報告・発表・評価 		
テキスト			
参考文献			
評価方法	平常の学習姿勢・提出物・定期試験等により総合的に評価する。		
授業履修上の心構え			

教育実習 I		2単位・後期・選択	広渡純子・上田哲世・中川香子・千葉武夫 橘実千代・清原知二・岩阪アツ子・森谷恭子 柏原栄子・大森瑠コ
授業のテーマ・ねらい	<p>本科目は、実習の最初の段階として位置づけられ、これからの実習の基礎となる科目である。保育の実践を観察し、保育に参加することによって、子ども理解を深め、保育者の援助や保育環境について体験的に学び、また実習記録をとることによって、その体験を確かなものにするをねらいとする。この科目をとおして、実習生としての自覚や基本的な態度を身につけていく。</p>		
	後 期		
授業計画	<p>「教育実習 I」は、二つの段階から構成されている。 第一段階……10月から12月にかけての隔週火曜日の午前中に、本学付属幼稚園および乳幼児保育センターにおいて、小グループでの参観を行なう(そのほか運動会・クリスマス参観も含まれる)。観察はあらかじめ与えられるテーマや方法によって行ない、その記録を提出する。 第二段階……1月の一週間は、協力実習園においての参加実習を行なう。終日を各実習園で過ごし、保育への参加はもとより、保育前後の清掃や園業務、保育の準備などを体験する。ただし、責任実習はまだ与えられない。記録は大学に提出する。 *いずれの場合も、事前に行なわれるオリエンテーションには必ず出席しなければならない。</p>		
テキスト			
参考文献			
評価方法	<p>実習日数、提出物、実習生としての態度等を総合的に評価し、可否を判定する。(詳細は「教育実習 I の手引き」に記載) なお、本科目の成績評価は、「教育実習 I 事前・事後指導」の成績評価と連動する。</p>		
授業履修上の心構え	<p>本科目は「教育実習 I 事前・事後指導」および「保育課程総論」と同時に履修しなければならない。また、保育士資格取得希望者も同様に履修しなければならない。 体調を整え、積極的に自覚と責任を持つてのぞむこと。</p>		

教育実習 I 事前・事後指導 1 単位・後期・選択 広渡純子・上田哲世・中川香子・千葉武夫 橋実千代・清原知二・岩阪アツ子・森谷恭子 柏原栄子・大森璋コ	
授業のテーマ・ねらい	「教育実習 I」のための事前および事後指導である。オリエンテーションによって参観や参加実習の準備をし、実習後はテーマに基づき参観の内容について小グループで話し合ったり、個人指導をとおして、子ども理解、保育者の援助や環境構成のあり方等について学び、体験を深める。また実習記録の書き方の基本を学び、次段階の実習に向けて自己の課題を見いだし、それらに積極的に取り組むことが求められる。
後 期	
授業計画	事前指導 1 オリエンテーション 参観・参加実習の目的・内容・心得・評価などについて 2 参観のポイントについて 3 実習記録の書き方の事前指導 事後指導 1 テーマに基づき、参観内容についての小グループでの話し合い 2 実習記録の書き方の事後指導 3 参加実習の体験報告および反省・評価 4 自己課題について 5 現職保育者による講演など 6 まとめ
テキスト	文部省「幼稚園教育要領」 キリスト教保育連盟「キリスト教保育」(月刊誌) その他、随時プリント等を配布する。
参考文献	文部省「指導計画の作成と展開」 荘司雅子監修「幼稚園・保育所・施設 実習ガイドブック」学術図書出版 1992
評価方法	授業への出席状況および参加態度、提出物の内容および提出状況等を総合的に評価し、可否を判定する。 なお、本科目の成績評価は「教育実習 I」の成績評価と連動する。
授業履修上の心構え	本科目は、「教育実習 I」と同時に履修しなければならない。 実習への意欲と自覚を持って積極的にディスカッションへ参加すること。

保育実習 I - B 2 単位・後期・選択 土田美世子・清原知二 遠藤和佳子・福壽弘子・山田裕子	
授業のテーマ・ねらい	この科目は、保育士資格の取得のための必須科目であり、「保育実習 I - A」(保育所実習)とともに保育実習を構成している。したがって、保育士資格取得希望者に、保育所以外の児童福祉施設における保育士の役割について実習を通して十分な理解を得させるとともに、保育士としての適性を自己評価できる力を得させることが目的である。
後 期	
授業計画	保育所を除く児童福祉施設において14日間の実習を行う。実施時期は、1年次の春季休暇を原則とする。なお、本実習のオリエンテーションは、1年次後期に開講される「保育実習 I - B 事前・事後指導」において実施する。保育実習 I - B 事前・事後指導において必要な課題を達成できなかったものは保育実習 I - B 参加資格を失う。エバリエーションは、実習終了後に実施する。
テキスト	
参考文献	
評価方法	成績は、点数による評価ではなく、可否のみの評価である。なお、本科目の成績評価は、「保育実習 I - B 事前・事後指導」の成績評価と連動する。
授業履修上の心構え	先修条件をクリアしていない者は、履修できない。夏季休暇直前に科目履修のためのオリエンテーションを実施する。これに参加しない学生は、履修しないものとみなす。保育士資格取得希望者以外は、原則として履修を認めない。また、「保育実習 I - B 事前・事後指導」と同時に履修しなければならない。

保育実習 I - B 事前・事後指導 2単位・後期・選択 土田美世子・清原知二 遠藤和佳子・福壽弘子・山田裕子	
授業のテーマ・ねらい	この科目は、「保育実習 I - B」のための事前協議であり、保育所以外の児童福祉施設における保育実習に必要な必構えや、実習施設についての情報提供、実習に求められる援助技術実習記録の書き方等を指導する。
	後 期
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・受講のためのオリエンテーション ・実習希望カードの回収及び初回試験 ・実習施設の配当調整 ・実習の目的と意義 ・実習施設の理解 ・実習施設での生活と実習課題 ・実習事前手続きの説明及び実習関係資料の閲覧 ・実習に求められる援助技術・知識の習得
テキスト	教育・保育実習を考える会編「施設実習の常識」蒼丘書林 1998 その他、後日指定する
参考文献	随時紹介する
評価方法	本科目の成績評価は、「保育実習 I - B」の成績評価と連動する。したがって、点数による評価ではなく、可否のみの評価であり、「保育実習 I - B」の単位が取得できない場合は、本科目の単位も取得できない。
授業履修上の心構え	原則として全回に出席しなければならない。また、本科目は、「保育実習 I - B」と同時に履修しなければならない。

小児保健実習 2単位・通年・選択 宮津 澄江		
授業のテーマ・ねらい	小児保健実習は、小児保健で学んだことを基礎に乳幼児の健康管理を体験的に学習する。乳幼児は、保育中に身体の変調を来したり、小さなケガをすることが多いが、その際保育者として適切な手当が実施できるよう、正しい処置方法を心得ておく必要がある。乳幼児の個々の発達段階に応じた健康状態の観察、日々の保育に必要な養護の技術および疾病や事故の予防、異常の早期発見とその手当など知識と技術を保育の中で実施できるよう習得する。	
	前 期	後 期
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の健康状態の観察 2 乳幼児の身体計測 3 乳幼児の身体計測の評価と方法 4 乳幼児の生理的発達とその観察 5 乳幼児の生理的機能の測定 6 乳幼児の精神発達と評価 7 乳幼児の運動機能の発達と評価 8 乳幼児の歯の健康と養護 9 乳幼児の保育のための環境整備 10 乳幼児の養護および栄養 11 乳幼児の清潔としつけ 12 乳幼児の清潔と養護 	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の異常症状とその手当 I 2 薬の飲ませ方や湿布、温罨法 3 乳幼児の異常症状とその手当 II 4 乳幼児の異常症状とその手当 III 5 乳幼児の異常症状とその手当 IV 6 乳幼児死亡率と不慮の事故 7 事故と応急手当 I 8 事故と応急手当 II 9 事故と応急手当 III 10 人命救助の原則 11 包帯法、創傷の手当 12 集団保育と健康管理
テキスト	鯨坂二夫監修・高内正子編著「小児保健実習」保育出版社	
参考文献	巷野悟郎「保育のための救急傷病看護」同文書院	
評価方法	出席状況、レポート提出、筆記試験（後期）による総合評価。	
授業履修上の心構え	すべての授業に出席すること。	

小児栄養実習		1単位・通年・選択	今津屋 直子
授業のテーマ・ねらい	<p>小児の身体の成長に伴い変化する栄養法について実習を通して学びます。特に乳幼児の咀嚼能力、嚥下能力および消化機能の発達を助ける食品と調理法についての理解を深めます。栄養というと栄養素や栄養所要量が話題となりやすいのですが、栄養は栄養素として摂るのではなく、食品として摂っています。実際に、食事のたびに栄養所要量を頭に浮かべて食事はしません。したがって、使える栄養学を身につけなければ学ぶ意味がありません。そこで、実習では、食品の品質、選び方、取り扱い方および調理技術を習得することによって、栄養学を実際の意味がありません。そこで、実習では、食品の品質、選び方、取り扱い方および調理技術を習得することによって、栄養学を実際的なものにしたいと思っています。また、乳幼児がどんな食品をどのように食べればよいのか考え、日常生活に取り入れられる献立を作成できる能力を養います。</p>		
	通 年		
授業計画	<p>講義の全体計画・講義（授業）方法 平常の講義においては、最初の授業時に全体の説明をし、その後は単品あるいは献立の調理をおこなう実習とします。実習後は、レポートを提出します。</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳汁期、離乳準備期の栄養 2. 調理の基礎 3. 離乳期の献立 4. 幼児期の献立 5. 乳幼児の病気と食事（食物アレルギー） 6. 行事食 		
テキスト	山口和子編「保育講座小児栄養」 ミネルバ書房 レシピおよび資料を配布		
参考文献図書	鯉坂二夫監修「小児栄養総論」 保育教育社 香川綾監修「食品成分表」 女子栄養大学出版部 辰巳芳子編「手塩にかけた私の料理」 婦人の友社（1992）		
評価方法	出席点重視（原則として全回出席のこと）、レポート		
授業履修上の心構え	<p>実習で学んだことを自分の食生活にも生かして下さい。</p> <p>授業時には、白衣あるいはエプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き、布巾等を用意しておくこと。また、清潔な身支度（瓜切りなど）をして参加して下さい。</p>		

日本国憲法		2単位・後期・選択	後藤 安子
授業のテーマ・ねらい	<p>〈テーマ〉 日常生活における具体的事例を通して日本国憲法を考える</p> <p>〈ねらい〉 憲法条文の背後に存在した、又、存在する否定的な事実を通して、人々の苦しみや悩みを考える。それらの中からどのように当事者が立ちあがり、権利の獲得や実現に努力したかについて具体的な事例を通して学ぶ。そしてすべての人々が自由に豊かに平和に暮らす上で、憲法を基礎とする権利や制度がどのように役立つかを考えてみる。</p>		
	後 期		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 憲法制定の歴史 2 日本国憲法の基本原理 3 憲法の平和主義 4 人権について。職場における男女平等 5 家庭における男女平等 6 信教の自由と政教分離 7 表現の自由とマスコミ報道 8 冤罪事件と被告人の権利 9 日本の学校教育 10 環境と公害 11 選挙をめぐる諸問題 12 地方自治 		
テキスト	播磨信義・木下智史編著「どうなっている!?日本国憲法（改訂版）」法律文化社		
参考文献図書	憲法教育研究会編「検証・日本国憲法（再訂版）」法律文化社		
評価方法	定期試験による。但し、平常時の出席及び意見提出を考慮する。		
授業履修上の心構え	<p>出欠をとる。授業中にとりあげる問題について意見を書いて提出してもらうので、憲法にかかわる現代の諸問題について関心をもつこと。</p>		